

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月12日

上場会社名 新日本理化株式会社

上場取引所 大

コード番号 4406 URL <http://www.nj-chem.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 藤本 万太郎

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役財務本部長 (氏名) 加藤 純

TEL 06-6202-6598

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	12,213	△32.4	△497	—	△451	—	△486	—
21年3月期第2四半期	18,054	—	477	—	616	—	385	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	△13.03	—
21年3月期第2四半期	10.35	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	29,696	10,824	36.4	290.04
21年3月期	31,282	10,640	34.0	285.10

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 10,816百万円 21年3月期 10,632百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,400	△14.2	110	—	130	—	110	—	2.95

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
  - ② ①以外の変更 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- |                      |             |             |             |             |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  | 22年3月期第2四半期 | 38,008,906株 | 21年3月期      | 38,008,906株 |
| ② 期末自己株式数            | 22年3月期第2四半期 | 715,469株    | 21年3月期      | 714,810株    |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第2四半期 | 37,293,654株 | 21年3月期第2四半期 | 37,299,328株 |

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における予想、見通し等は、作成時における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により、実際の業績が異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は3ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国発の金融不安に端を発した世界的経済減速により企業収益の減少、雇用情勢の急速な悪化がみられたなか、政府による数次の追加経済対策もあって、生産や輸出は緩やかながらも持ち直しの動きをみせました。しかしながら、依然として個人消費の伸び悩みや円高の進行といったマイナス要因をはらんでおり、景気の先行きには不安感の強い環境が続いております。

化学業界におきましても、海外経済の回復を背景に輸出の増加基調や在庫調整が一服したことで一部の製造業を牽引とした景気回復期待がある一方、国内消費の回復はいまだおぼつかないままに推移し、厳しい事業経営を余儀なくされました。

このような環境のなか、当社グループにおきましては、営業活動において収益性の高い高付加価値製品の拡販に努めるとともに、人件費をはじめとする経費全般の削減および製造・物流などのトータルコストの合理化を行うなど、より一層の業績回復に取り組んでまいりました。しかしながら、引き続き需要の低迷感が払拭されず、加えて原材料の上昇や為替市場の円高などにより収益確保には非常に厳しい状況でありました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、122億1千3百万円（前年同四半期比32.4%減）となり、収益面では、経常損失は4億5千1百万円（前年同四半期は6億1千6百万円の経常利益）、四半期純損失は4億8千6百万円（前年同四半期は3億8千5百万円の四半期純利益）を計上することとなりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## ① 油脂製品セグメント

脂肪酸、グリセリン等の油脂製品は、主要需要先での在庫調整の影響を受け、販売は総じて低調に推移いたしました。子会社である千葉脂肪酸株式会社の製品の取扱いを含め、販売数量は増加いたしました。一方、売上高につきましては、原料相場に応じた販売価格の改定を行ったことにより減少いたしました。

アルコール製品は界面活性剤・トイレタリー分野での販売が堅調に推移いたしました。輸出販売の低迷がひびき、販売数量・売上高ともに減少いたしました。

以上の結果、油脂製品セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は48億9百万円となり、前年同四半期比21.3%の減少となりました。

## ② 石化製品セグメント

石化製品セグメントにおける化成品部門におきましては、主力の可塑剤は建材分野での需要回復が遅れるなか、自動車関連分野において政府による景気刺激策の効果が表れたほか、輸入品の減少により販売数量は回復傾向に向かいました。また、採算面では原油・ナフサ価格の高騰に応じた販売価格の改定を行いました。しかしながら、需要の本格回復には至らず、販売数量・売上高ともに減少いたしました。

ベンゼン誘導体につきましても、自動車関連分野が緩やかに持ち直しを見せるものの、需要回復の本格化には、なお時間を要するため、販売数量・売上高ともに減少となりました。

機能製品部門では、自動車関連・電機分野において期初、在庫調整の進展により、需要が一時的に急増いたしました。その後は安定した出荷に転じ推移いたしました。一方、輸出につきましては、中国向けを中心に販売数量としては好調に推移いたしました。売上高におきましては、市況の低迷に加え、為替の急速な円高などにより減少いたしました。

樹脂添加剤は、国内は緩やかな回復基調をたどっているほか、輸出につきましてもアジア市場における新規取引の開始により、総じて順調に推移いたしました。

以上の結果、石化製品セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は74億4百万円となり、前年同四半期比38.0%の減少となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前年度末比 $\Delta$ 5.1%、金額で15億8千6百万円減少の296億9千6百万円となりました。

流動資産につきましては、主として棚卸資産の減少により前年度末比 $\Delta$ 14.5%、金額で23億2千9百万円減少の137億2千7百万円となりました。固定資産につきましては投資有価証券の増加等により前年度末比+4.9%、金額で7億4千3百万円増加し159億6千8百万円となりました。

流動負債につきましては、短期借入金の減少等により前年度末 $\Delta$ 15.3%、金額で19億6千1百万円減少の108億5千7百万円となりました。固定負債につきましては、繰延税金負債の増加等により前年度末比+2.4%、金額で1億9千万円増加の80億1千3百万円となり、負債の部合計では、前年度末比 $\Delta$ 8.6%、金額で17億7千万円減少の188億7千1百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純損失を計上しましたものの、評価・換算差額等の増加により前年度末比+1.7%、金額で1億8千4百万円増加の108億2千4百万円となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は36.4%、1株当たり純資産額は290円04銭となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、16億6千8百万円となりました。

営業活動の結果、資金は25億3千2百万円増加(前年同四半期は2億5千7百万円減少)しました。これは主に、たな卸資産の減少23億3千万円によるものであります。

投資活動の結果、資金は8億6千9百万円減少(前年同四半期は16億7千7百万円減少)しました。これは主に、有形固定資産の取得8億5千4百万円によるものであります。

財務活動の結果、資金は17億5千5百万円減少(前年同四半期は19億8千万円増加)しました。これは主に、借入金の減少17億8百万円によるものであります。

また、当社は、事業資金の効率的で安定的な調達を図るため、取引金融機関数行との間でシンジケートローン契約を締結しております。当該契約には一定の財務制限条項があり各年度の第2四半期末日及び年度末日における単体及び連結の貸借対照表における純資産の部の合計額を当該決算期の直前の決算期(第2四半期含む)の末日又は基準となる決算期の末日のいずれか大きい方の75%以上に維持すること、及び各年度の決算期における単体及び連結の損益計算書における経常損益が2期連続で損失とならないようにすることの取り決めがなされております。

当第2四半期連結会計期間末において、本財務制限条項の一部に抵触しており、これらに抵触した場合、該当する借入金の一括返済及び契約解除の恐れがあり、当社の資金調達に影響を及ぼす可能性があります。平成21年11月12日現在、当社は、当該財務制限条項への抵触を期限の利益の喪失事由としないうちに、取引金融機関に働きかけております。

なお、期限の利益を喪失した場合においても、当社の資金繰状況を総合的に勘案した結果、当該借入金の返済に問題は生じないものと判断しております。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年11月5日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,703	1,782
受取手形及び売掛金	8,216	8,031
商品及び製品	1,823	2,738
仕掛品	1,093	1,842
原材料及び貯蔵品	771	1,439
その他	127	236
貸倒引当金	△8	△14
流動資産合計	13,727	16,056
固定資産		
有形固定資産	7,831	8,128
無形固定資産	260	284
投資その他の資産		
投資有価証券	7,393	6,280
その他	484	532
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	7,877	6,811
固定資産合計	15,968	15,225
資産合計	29,696	31,282
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,140	4,064
短期借入金	5,354	6,941
未払法人税等	21	33
賞与引当金	104	100
その他	1,236	1,679
流動負債合計	10,857	12,819
固定負債		
長期借入金	5,275	5,397
退職給付引当金	1,833	1,826
役員退職慰労引当金	13	13
その他	892	585
固定負債合計	8,013	7,822
負債合計	18,871	20,642

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,660	5,660
資本剰余金	4,246	4,246
利益剰余金	1,018	1,504
自己株式	△168	△168
株主資本合計	10,757	11,244
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	957	384
繰延ヘッジ損益	△35	△31
為替換算調整勘定	△863	△964
評価・換算差額等合計	58	△611
少数株主持分	8	7
純資産合計	10,824	10,640
負債純資産合計	29,696	31,282

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	18,054	12,213
売上原価	15,371	10,877
売上総利益	2,683	1,336
販売費及び一般管理費	2,206	1,833
営業利益又は営業損失(△)	477	△497
営業外収益		
受取配当金	76	58
持分法による投資利益	136	110
その他	30	43
営業外収益合計	243	213
営業外費用		
支払利息	94	106
その他	9	60
営業外費用合計	104	166
経常利益又は経常損失(△)	616	△451
特別損失		
固定資産除却損	22	4
投資有価証券評価損	180	—
減損損失	—	12
会員権評価損	—	2
その他	4	3
特別損失合計	206	22
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	410	△474
法人税、住民税及び事業税	24	8
法人税等調整額	0	2
法人税等合計	25	10
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	385	△486

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	410	△474
減価償却費	533	592
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△5
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2	3
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△100	6
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△3	△0
受取利息及び受取配当金	△82	△61
支払利息	94	106
持分法による投資損益(△は益)	△136	△110
固定資産除却損	22	4
投資有価証券評価損益(△は益)	180	—
減損損失	—	12
売上債権の増減額(△は増加)	△619	△184
たな卸資産の増減額(△は増加)	△762	2,330
仕入債務の増減額(△は減少)	215	75
その他	△26	260
小計	△277	2,555
利息及び配当金の受取額	147	92
利息の支払額	△105	△93
法人税等の支払額	△22	△20
営業活動によるキャッシュ・フロー	△257	2,532
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△20
定期預金の払戻による収入	12	—
有形固定資産の取得による支出	△1,386	△854
投資有価証券の取得による支出	△5	△20
関係会社株式の取得による支出	△293	△9
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	1	—
貸付けによる支出	△16	△18
貸付金の回収による収入	21	19
その他	△9	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,677	△869

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	7,310	4,900
短期借入金の返済による支出	△6,410	△7,320
長期借入れによる収入	2,212	1,200
長期借入金の返済による支出	△873	△488
社債の償還による支出	△30	—
配当金の支払額	△185	△0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△42	△46
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,980	△1,755
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	63	△99
現金及び現金同等物の期首残高	1,481	1,767
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,544	1,668

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	油脂製品 (百万円)	石化製品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	6,109	11,945	18,054	—	18,054
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,109	11,945	18,054	—	18,054
営業利益	154	1,289	1,443	(965)	477

(注) 1 事業区分は、当社製品の種類・性質に応じて、油脂製品、石化製品にセグメンテーションしております。

## 2 各事業の主な製品

(1) 油脂製品……硬化油、脂肪酸、グリセリン、高級アルコール、ロジン誘導体

(2) 石化製品……可塑剤、ベンゼン誘導体、酸無水物

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	油脂製品 (百万円)	石化製品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,809	7,404	12,213	—	12,213
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,809	7,404	12,213	—	12,213
営業利益又は営業損失(△)	△175	479	303	(801)	△497

(注) 1 事業区分は、当社製品の種類・性質に応じて、油脂製品、石化製品にセグメンテーションしております。

## 2 各事業の主な製品

(1) 油脂製品……硬化油、脂肪酸、グリセリン、高級アルコール、ロジン誘導体

(2) 石化製品……可塑剤、ベンゼン誘導体、酸無水物

## 【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

在外連結子会社及び在外支店がありませんので、開示を行っておりません。

## 【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	アジア・オセアニア	欧州	米州	計
I 海外売上高(百万円)	1,385	477	164	2,028
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	18,054
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	7.7	2.6	0.9	11.2

- (注) 1 国又は地域は、地理的近接度によって区分しております。  
 2 各区分に属する国又は地域の内訳は次の通りであります。  
 アジア・オセアニア……台湾・中国・韓国等  
 欧州……英国・ドイツ等  
 米州……米国・ブラジル  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	アジア・オセアニア	欧州	米州	計
I 海外売上高(百万円)	819	374	134	1,328
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	12,213
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	6.7	3.1	1.1	10.9

- (注) 1 国又は地域は、地理的近接度によって区分しております。  
 2 各区分に属する国又は地域の内訳は次の通りであります。  
 アジア・オセアニア……台湾・中国・韓国等  
 欧州……英国・ドイツ等  
 米州……米国・ブラジル  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。